

30年6月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 6月1日～ 30年6月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
入荷動向	国産材製材品	0.0	7.1	0.0
	外材製材品	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	その他	—	—	—
販売動向	国産材製材品	7.1	△ 7.1	△ 28.6
	外材製材品	16.7	0.0	△ 25.0
	その他	—	—	—
在庫動向	国産材製材品	7.1	7.1	0.0
	外材製材品	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	その他	—	—	—

・国産材製材品の入荷動向は6月の横ばいから7月は増加、8月は再び横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。

・国産材製材品の販売動向は6月の増加から6月、7月は減少に。外材製材品は6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。

・国産材製材品の在庫動向は6月、7月の増加から8月は横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 7.1	△ 7.1	0.0
	通し柱 12×6	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	加工板	△ 8.3	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	0.0	0.0	0.0
	土台角 12×4	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	△ 8.3	△ 8.3	△ 8.3
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	10.0	0.0	0.0	
米マツ割物	30.0	0.0	0.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	10.0	0.0	0.0	

・スギは柱角KD10.5×3は横ばいだが、柱角KD12×3は弱含み。通し柱12×6は弱保合。その他の品目は横ばい。

・ヒノキは柱角KD、土台角とも横ばい。通し柱は弱含み。

・カラマツ土台角は横ばい。

・米マツ平角は現地の状況により強含み。
・北洋エゾマツ・アカマツタルキ横ばい。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・米ツガは入荷少ない。WWは一部少ない。アカマツは人気の品は少ない。販売動向は動き悪い。記念市があったため5月よりは少し良い(関東)。
- ・スギ・ヒノキは九州・四国からの荷動きが停滞している。米材・北洋材は仕入れコストが上昇しているが、港の倉庫料の問題で入荷をおさえている。販売は国産材、外材ともにやや増加している。在庫期間が長期にわたるため、多少の値下げは目を瞑っている状態。在庫は減少傾向で元落比率は役物、太角材を中心に高い(中部)。
- ・原木は品薄の時期に入ってきたが、小径木からとる商品以外は入荷状況に変化なし(中部)。
- ・国産材の原木不足が解消し入荷が増加(近畿)。
- ・市況は揮わず入荷・販売動向は横ばい状態が続く(九州)。

(価格動向)

- ・スギ柱角(KD10.5cm) 63,000円/m³、(KD12.0cm) 63,000円/m³、スギ桁角(東北材グリーンラフ) 42,000円/m³、母屋角(東北材)二等 30,000円/m³、スギタルキ(東北材) 45,000円/m³、スギ間柱(特KD) 63,000円/m³、スギ加工板(東北グリーン材) 東2,800円、(KD) 東4,800円、スギヌキ(東北) 単価 42,000円/m³、秋田材52,000円/m³ スギ平割(プレーナー) 45,000円/m³、同(ラフ) 43,000/m³
- ヒノキ柱角(KD)・土台角10.5cm、12.5cm 85,000円/m³、米マツ平角 KD 70,000円/m³、米マツ割物AD 75,000円/m³、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価) (S) 70,000円/m³、(P) 60,000円/m³、(バンドル単価) (S) 68,000円/m³、(P) 58,000円/m³(関東)。
- ・スギ柱角KDは高値で安定している。一等材料、一等上のような材に人気が出てきている。スギ通し柱は扱いが少なく、東海地区ではスギの構造材自体が関東・北陸地区より物量が伸びていない。集成材にとって代わられているところもあり、扱いが難しい商品と考えられる。ヒノキ柱角KDは価格が高値で安定している。ヒノキ土台角は柱材に比べると価格は少し弱い。ヒノキ通し柱は注文以外はレギュラーの商品として流通しなくなっている。米マツ平角、割物は北米の現地が強く価格がやや上昇。国内販売状況は改善されてない。北洋エゾマツ・アカマツタルキは品質が落ちているのに価格が強い(中部)。
- ・スギタルキは10.5角の価格は高止まり。下がることは原木価格からなさそうだが、上がることも需要に乏しく難しい。ヒノキは春先に比べると土台関係も品薄ではなくなってきたが、価格の変化はない(中部)。
- ・WW間柱は現地が強度のためやや上昇(近畿)。